

展示室1a, b ぎふの日本画 いのちのルー ～土屋 禮一を中心に～

2020年12月18日(金)
- 2021年2月28日(日)

岐阜ゆかりの日本画家の系譜を辿るシリーズ「ぎふの日本画」。

第1回目は令和の大嘗祭で「主基地方風俗歌屏風」を描いた画家、土屋 禮一を中心に紹介します。

明治・大正・昭和・平成・令和—5つの時代がうつろい、価値観がめまぐるしく変わる世相の中でも、私たちが生を受け、地に還ることは昔も今も変わりません。今回はいつの時代も問い直される「いのち」をテーマに、人や生き物、樹木などの「いのち」、それを見つめる画家の視点を取り上げます。

*印は寄託作品

作家名	生年-没年	作品名	制作年	技法、素材
かとう えいぞう 加藤 栄三	1906-1972	そら 空	1958	紙本着色
つちや てるお 土屋 輝雄	1909-1962	そびよう 素描		
		あさ 朝	1957	紙本着色
かとう とういち 加藤 東一	1916-1996	ある行進 ある行進	1974	紙本着色
つちや れいいち 土屋 禮一	1946-	ブローチを付けた自画像 つじがぞう	1972	紙本着色
		く い 暮れて行く	1976	紙本着色
		みち 道	1979	紙本着色
		くも 雲	1995	紙本着色
		* みようぎ 妙義	1998	紙本着色
		はくろうんふ 白雲譜	2001	紙本着色
		せきもん 石門	2003	紙本着色
		* ちんじゅ 椿樹	2005	紙本着色
		おうじゅ 桜樹	2008	紙本着色
		みず ふうけい 水の風景	2010	紙本着色
		うんりゅう 雲龍	2011	紙本着色
はせがわ よしひさ 長谷川 喜久	1964-	はくえい あか 白映に赤	2018	紙本着色
はやしん 林 真	1972-	こう 業	2013	紙本着色